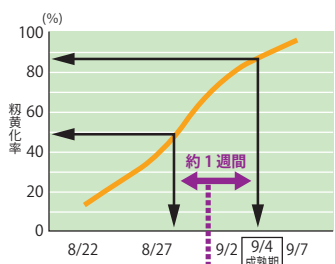


## 1 適期収穫(刈り遅れない)

収穫時期が近づいたらほ場に入って穂(籾)をしっかり確認し、黄化籾が85%以上になったら収穫を開始する。なお、目安として、籾黄化率50%程度で収穫7日前となる。

成熟期前の籾黄化率の推移  
(農業技術振興センター 2008年「コシヒカリ」)



この期間は、急速に籾の黄化が進むので、ほ場に入って穂を確認する。

## 【適期収穫のポイント】

★葉色に惑わされず、ほ場に入って穂をしっかり確認する。

①上から3〜4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃

②籾黄化率85%〜90%

★収穫7日前の目安

籾黄化率50%程度

・米・麦・大豆栽培ごよみ冊子の



## 2 その他の注意点

巻末に収穫適期判定板がありますので、籾黄化率の確認にご活用ください。

近年は温暖化の影響で出穂期〜成熟期までの期間が短くなる傾向にあり、収穫適期の幅が短くなっていることから刈り遅れによる胴割粒や光沢不足による外観品質の低下が見受けられます。落水時期の目安を収穫5日前とし、天候に常に注意を払い、コンバインや乾燥機的能力にあわせた作業計画を組み、刈り遅れないよう心がけましょう。

また、収穫後の籾を長時間放置せず、速やかに通風乾燥するか、乾燥・調製等の作業を行うほか、異品種混入(コンタミ)防止のため、作業前・品種切り替え時にコンバイン・乾燥機・籾摺機等の清掃を徹底しましょう。

なお、クサネム等の雑草の実は、選別機でも除去できない場合がありますので、収穫前にほ場から除去しましょう。



クサネム

## 農作業事故に注意!

### 滋賀県の農作業事故発生状況

◆県内では、毎年40件以上の農作業事故が発生しており、死亡事故も後を絶ちません。

◆トラクター、コンバイン、刈払機による事故が6割以上を占めています。毎年、秋の農繁期に農作業事故が多く発生しています。作業前のチェックで事故を防止しましょう。

## タマネギの秋まき栽培

### 手軽にできる有機ベランダ栽培

タマネギは、国内生産量が第4位、おなじみの家庭常備野菜です。奥行き22×24cm、間口60cmのコンテナであれば、2条植えて10株収穫できます。早生種、中生種、中晩生種を組み合わせ多めに栽培すれば、5月から翌年1月まで自給が可能です。初心者も苗を買って植え付けることをお勧めしますが、種まきから始めることもできます。

種まきは、関東以西の平地で9月中旬、東北は9月上旬、暖地は9月下旬が目安ですが、各地域の適期に従います。早生種はこれより早めに、中晩生種は遅めにします。植え付け用とは別にコンテナを用意し、種の間隔が0.5〜1cm、条間10cmの条まきに、厚さ1cmに覆土して水やりします。発芽したら2cm間隔に間引き、種まきから30日後にぼかし肥1条当たり10gを追肥します。株元の太さが5〜7mmに育つまで55〜60日です。植え付けは11月中旬が目安です。条間と株間は共に12〜13cmの正方形にします。苗は多めに用意しコンテナごとに大きさをそろえて植えます。株元の太さが5mm程

度を標準にし、それよりも太い場合でも鉛筆の太さ(約7mm)を超えない物を選びます。太いととう立ちしやすく、細過ぎると小さな球にしかなりません。植え付け位置に深さ3〜4cmの細い植え穴を作り、葉の分岐部が埋まらないように、下部の白い部分が3分の1ほど地上に見えるぐらいに押し込みます。このとき、根が地上に出ないようにします。コンテナには前日までに水やりをしておき、植え付けたら地際を手で強めに押さえます。追肥は12月下旬、2月上旬と下旬の3回、ぼかし肥1条当たり10g施します。水やりは適宜行い、特に生育が旺盛になる3月下旬以降は毎日行います。

収穫は、葉が自然に倒れてから、まだ葉が青々している状態で抜き取りします。葉を半分切り落とし数個を1束に縛り、風通しの良い日陰でつり下げ保存します。

